

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1494400029	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年9月29日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター綾瀬寺尾		
所在地	(〒 252-1131) 神奈川県綾瀬市寺尾北2-17-31-2		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>メニューの工夫で季節に応じた食事を提供し、一緒に食事や片づけをすることで楽しみを持ち続けられるよう努力している。 また最後まで穏やかに暮らせるよう支援している。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月10日	評価機関 評価決定日	平成25年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所は、相鉄かしわ台駅から徒歩7分ほどで、表通りから少し入った場所にある。周囲は静かな住宅街で、事業所のリビングからはオーナーの私有地である菜園や雑木林が広がっている。「田舎を思い出す」「どこか懐かしい感じ」「緑が多く落ち着く」など来訪者にも評判がよい環境である。玄関前には木製のベンチが置かれ、駐車場脇の敷地内では、バーベキューや運動会などの行事を開催し、家族や地域住民と交流している。綾瀬市では一番初めに開設したグループホームであり、今年で10年目を迎えた。管理者は開設時から代わらず、勤続年数の長い職員が多いため。地域住民とも良好な関係を築いている。また近隣の他のグループホーム事業所との交流もあり、日頃から同業者同士で情報交換をしている。</p> <p>【心に余裕をもつ支援の在り方】 開設当初からの変わらない理念「いつも若々しく遊び心を忘れない」は利用者が穏やかに過ごせるように、まず職員自身が「余裕=遊び心」を持つこと。介護の手順や基本は押さえつつも、決まりごとや形式に振り回されるのではなく、気持ちに余裕を持ったサービスが行なえることが大事であるとしている。事業所が家庭的な雰囲気のある場所となれるよう、職員は法人共通のユニホームをあえて着ていない。家と同じように普段着を着用し、明るく笑顔で利用者に接し、親戚・大家族のような関係になれるよう努めている。利用者も明るい方が多く、訪問した際にも職員と一緒に笑顔で迎えてくれた。</p> <p>【看取り支援に対する協体制】 ここ「ニチイケアセンター綾瀬寺尾」が利用者にとっての「家」であるという強い思いから、看取りに対しても、本人や家族の希望があれば積極的に支援する方針である。事業所では、これまでも協力医や家族と連携しながら、6件の看取りに対応してきた実績がある。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター綾瀬寺尾
ユニット名	バラ

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【いつも遊び心を忘れない】をホームの標語とし、心に余裕を持ち接することを、心掛けている。	事業所の設立時に作成した理念「いつも若々しく、遊び心を忘れない」の「遊び心」とは、介護するに当たっては、『心に余裕を持って当たる』と言うことである。職員には会議や日々の支援の中で周知している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掃除当番、近隣への毎日の買物、お祭り参加、ボランティアによる合唱等で交流を持ち、ホーム行事にも近隣の方の参加をお願いしている。	町内会に加入して、運動会やお祭り等に参加している。近隣住民とは、日常的に挨拶を交わしている。花見などの事業所の外出行事には、声をかけて一緒に出掛けるなど良好な関係を築いている。地域のボランティアによる大正琴やハンドベル、また小学生や幼稚園児も来訪している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば話を聞き、解決策を一緒に考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームでの生活を報告したり、地域での出来事を聞き連携をとっている。 取り入れられることは試してみる。	会議は直近で9月に開催した。奇数月に行うことで定着している。各地区の民生委員、自治会代表、地域包括支援センター職員、嘱託医、家族代表などのほか、市の職員も毎回参加している。会議では事業所からの近況報告と意見交換、地域の情報収集などを行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していたり、こちらから出向いて実情を伝え協力を仰いでいる。	綾瀬市高齢介護課が担当部署であり、要介護認定の更新手続きなどで市役所に行った時には、事業所の近況を伝えるなどして、日頃から交流している。市の担当者から電話で相談を受けることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠はせず、常に見守りを実行している。 身体拘束をしないケアを全職員が理解し、実践している。	玄関やフロアとも施錠はしていない。センサーチャイムも利用者への配慮から使用していない。各居室の窓も全開できるようにしている。県のグループホーム協議会主催の研修に参加し、職員に周知している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合う機会を持ち、見過ごす事の無いよう防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれが学び、ミーティング等で全員が話し合い、必要であれば支援できるよう心掛けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明をし納得していただいている。 疑問のある時はいつでも説明できる体制であることを伝えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・ホーム行事の参加時及び面会時には、意見を言いやすい雰囲気になるよう心掛けている。	家族には、普段から来訪時に話を聞いている。家族会は今後、定期的開催していく予定である。バーベキューやクリスマス会などの行事の時に家族を招待し、和やかな雰囲気の中で話し合えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、業務の改善等、その都度状況の変化に応じて職員の意見を聞き、反映させる環境を整えている。	職員からの意見や提案は、ケアの方法や困難事例についての対応方法などが多い。フロアミーティングは別々ではなく、職員同士がお互いに、自分たちの業務や支援の方法について勉強できるよう、1・2階合同で行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心がけている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内でのスキルアップ研修を受け、質の向上を図るよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業者の運営推進会議に参加し、交流を図るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から話を聞き、参考にしながらご本人が安心できる環境を作る努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時の心配事やこれからの必要なことは良く話し合い納得できるサービスを提供できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で必要なことがあれば、他のサービスが利用できることを伝えて支援している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ、一緒に生活をしお互い助け合う関係を持つよう努力している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族の心配事を聞いたり、ホーム行事に参加していただくことで共に支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方が遊びに来られるように、ご家族にも声かけし支援に努めている。	日頃から家族の面会が多く、友人や知人の来訪もある。面会が夜遅い時間になっても、快く受け入れている。本人の馴染みの場所や人との交流を家族と協力して行っている。利用者の遠方の出身地に家族と旅行した事例もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い思いやりのある声かけをし、日常生活で分からないことがあれば積極的に教えたりするかわりを持てるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談があれば、支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、要望を把握できるよう、職員間で情報共有し対応している。	意向や要望は、すぐに利用者から発信される場合が多い。その人が今何をしたいのか、どのように過ごしたいのか、様子から察するよう職員に指導している。言葉にならないことでも、些細なサインを見逃さないように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化することを把握し対応できるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方はサービス担当者会議で話し合い、ご家族の意見等を聞きながら作成している。	介護計画書は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月ごと、状態に変化が生じた時は、その都度見直しをしている。必要に応じて医師や看護師のアドバイスも受けている。職員には「自分のケアについての見直し」とした課題を出し、介護計画を意識した支援と記録ができるように指導している。	ケアプランに基づく個別の支援を職員に意識づけ、記録する技術向上のため、事業所独自の課題を設定し、意欲的に取り組みました。今後も定期的に継続し、全職員に定着できることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアノート等で気づきや工夫が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況・状態を見ながら支援できるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとにバラ園の見学・作物の収穫など、自然にふれる機会を作っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ホームドクターの往診により、ご家族の希望を取り入れ適切な医療が受けられるよう支援している。	現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。往診は月2回、訪問看護は週1回で看護師とは24時間連絡可能になっている。訪問歯科は週1回、希望により訪問マッサージを受けている方もいる。他科の受診は基本的には家族対応で、他科の医師と往診医との情報交換がされている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によるケアや提携クリニックの看護師によるアドバイスを常に受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換と、早期退院に向けた話し合いの場を持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームドクター・ご家族と十分に話し合い、良い終末期が迎えられるよう支援に取り組んでいる。	「終末期の介護で様子の変化を見逃さない」と題した介護計画目標を作成し、個々の症状に合わせた体制で支援している。協力医との連携も強く、家族の協力を得て今までに6件の看取りを行なった。管理者は、利用者や家族が希望すれば最期まで見る方針で、職員も看取りを実施する心構えができています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回、消防署の立会いの下、近隣の方にも参加していただき協力体制を築いている。	避難訓練には年2回とも消防署が立ち会っている。利用者と職員全員で行い、近隣住民も参加している。地域の防災訓練にも参加し、AEDの使用など救命の訓練を行っている。衣類をはじめ、食品、水などを建物外に設置した小型コンテナに約3日分備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声かけで対応し、職員の言動等は早期に気づき指導できるように対応している。	利用者には親しみをこめた声かけをしながらも、年長者に対する尊敬は忘れないよう努めている。個人情報保護の研修では毎年、確認テストを実施している。個人情報が含まれている書類は事務所の施錠できるキャビネットで管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞いたり表現できるような環境を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで考え、過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できない方にも、季節に合ったおしゃれを心掛けている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	独自の献立を作成し、季節食・行事職を楽しめるように支援している。 また積極的に手伝っていただけるよう声かけしている。	オーナーの菜園で採れた旬の野菜を取り入れるなど季節感のある献立を、10日分単位で職員が作成し調理している。日々の食材は職員と利用者の1人が買い出しに行っている。職員は必要な介助や会話をしながら利用者と同じものを食し、楽しい食事時間となるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量を記録・把握し体調管理をしている。 また調理法の工夫で食べやすい食事を提供できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・義歯の洗浄をしている。 状態に応じて訪問歯科を受診している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけ・誘導にてトイレで排泄が出来るように自立支援をしている。	介護記録で個々の排泄パターンを把握している。オムツやパットを使用している利用者もトイレでの排泄を基本として支援している。自立の方には見守りで安全利用に配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や調理の工夫また水分量を把握し予防できるよう取り組んでいる。 また適度な運動への働きかけをしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴は本人の希望を聞き、それに沿って入浴できるよう支援している。	平均して週2回程度、午後に入る利用者が多い。入浴を好まない方もいるが、入浴回数にあまりこだわり過ぎず、無理強いはない。体調や状況により清拭や足湯で対応している。他の利用者が寝てから入浴したい方には本人の希望に合わせて対応している。入浴記録を浴場入口に掲示している。折りたたみ式の衝立てがあり、プライバシー保護に配慮が見られる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝をしたり、居室で休息を取れるよう配慮している。 また気持ちよい睡眠のために、リネン交換・布団干し等を行って支援している。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書で薬の目的や副作用を正しく把握し、病状の変化に気づき対応できるような体制で支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、掃除・食器片付け等、それぞれの役割を持ち個々の力を活かせるよう支援している。 また嗜好品・楽しみごと等はご本人の希望に沿って支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行かれる人は散歩がてら毎日の買物に同伴して貰っている。 またご家族の協力で本人の希望する場所へ出かけられるよう支援している。	日常では事業所の周辺を10分ほど散歩している。あまり外出を好まない方にも、広いデッキや駐車場に出るなど、外気浴を支援している。遠方への外出行事は介護タクシーを利用して、バラ園見学などに行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望や能力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話がかけられるように、また手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた生活が送れるよう、生活感・季節感に留意した空間作りを心がけている。また光や温度など、不快に感じないように気をつけている。	1階の居間から続くウッドデッキに出ると雑木林が広がり開放感がある。小上がりの和室では、洗濯物をたたんだり、ゆっくりテレビを楽しむ利用者もいる。過剰な飾りは無く利用者の作品や、季節の草花が飾られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いに、気のあった方同士でくつろげるような共用空間作りをし、独りになりたい人にはそのような居場所作りに努めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く暮らせるような居室作りはご本人やご家族と相談して工夫している。	部屋を広々と使えるように、余分な物は置かない方や、ソファや仏壇を持ち込む方、また自分の作品を飾っている方など、利用者は過ごしやすい部屋づくりをしている。自室がわかりやすいように、入り口には名札に造花を飾って目印としている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるような環境作りに努めている。		

事業所名	ニチケアセンター綾瀬寺尾
ユニット名	ひまわり

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【いつも遊び心を忘れない】をホームの標語とし、心に余裕を持ち接することを、心掛けている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掃除当番、近隣への毎日の買物、お祭り参加、ボランティアによる合唱等で交流を持ち、ホーム行事にも近隣の方の参加をお願いしている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば話を聞き、解決策を一緒に考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームでの生活を報告したり、地域での出来事を聞き連携をとっている。取り入れられることは試してみる。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、こちらから出向いて実情を伝え協力を仰いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠はせず、常に見守りを実行している。 身体拘束をしないケアを全職員が理解し、実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合う機会を持ち、見過ごす事の無いよう防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれが学び、ミーティング等で全員が話し合い、必要であれば支援できるよう心掛けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明をし納得していただいている。 疑問のある時はいつでも説明できる体制であることを伝えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・ホーム行事の参加時及び面会時には、意見を言いやすい雰囲気になるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、業務の改善等、その都度状況の変化に応じて職員の意見を聞き、反映させる環境を整えている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心がけている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内でのスキルアップ研修を受け、質の向上を図るよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業者の運営推進会議に参加し、交流を図るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から話を聞き、参考にしながらご本人が安心できる環境を作る努力をしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時の心配事やこれからの必要なことは良く話し合い納得できるサービスを提供できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で必要なことがあれば、他のサービスが利用できることを伝えて支援している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ、一緒に生活をしお互い助け合う関係を持つよう努力している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族の心配事を聞いたり、ホーム行事に参加していただくことで共に支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で墓参りに行ったり、自宅へ帰ったりしている。 また近所の人気が気軽に遊びに来られるような雰囲気作りをすることで支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格・体力を把握し、お互いに出来ることをするような関係作りを支援している。 また教えあったり出来るように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでも相談を受け入れる体制を整えている。 訪問時には大きな行事等の参加を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の意向を伺ったり、ご本人とお話をしたりして、ご本人の意向を出来るだけ把握するよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をご家族・ご本人の話から汲み取り、職員全員が情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化の把握と現在の体力・能力等の把握を職員が情報共有して、日々の生活に生かせるよう支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人の意向に沿うよう、職員・ドクター・看護師と話し合い、今一番必要な介護計画をたてるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や実践したこと・気づいたことを記入し職員で情報共有しながら、その後の介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況・状態をみながら対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買物で近隣の方と話したり、子供会等のボランティアに来てもらったりと地域との関わりを持ちながら、豊かな暮らしを味わっていただくよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの往診医の定期訪問と緊急時における対応により、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日ごろの様子などを伝え、適切な指示を貰っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師や相談員と早期退院に向けての話し合いを常に行い、情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>往診医・ご家族と良く話し合い、ご本人の気持ちに沿うような方針を立てるよう努力している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は全員救命講習を受けている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施している。 また近隣の方にも参加をお願いして、緊急時には協力していただけるような体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった声かけをなじみの呼び名で対応している。 職員の言動については早期に気づくように心がけ指導している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を良く聞くと共に、話しやすいような環境作りや自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調管理を考えながら本人の希望を聞き、散歩や休養を取れるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や、季節感を話しながらアドバイスをし、おしゃれを楽しんでいただくよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった献立を作り食べる楽しみを持ってもらうよう支援している。 また出来る方には準備や片づけをしていただくよう声かけしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し、調理の工夫で食べやすくする等支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア・義歯洗浄をしている。 定期的に歯科受診をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへ誘導することで排泄の自立を促すよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量を把握し、食材の工夫で予防に取り組んでいる。 また適度な運動への働きかけを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の要望を優先し、体力やその日の体調を考慮しながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質の睡眠を取れるよう、リネン交換やベットメイクに気を使っている。 また個々の要望に応じて休息や昼寝が出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の用法・用量等を正確に把握し、ドクターの指示により症状に合わせた服薬の支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意とすること・出来ることを把握し、積極的に行える環境作りを整えるよう努力している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や花見等、要望に応じて楽しめるよう支援している。 体調を考慮しながら、買物・外出が出来るよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用はご家族と相談の上、自由にさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話でも手紙でもやり取りができるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を取り入れた飾りや、皆さんで作成した作品等を展示し、明るい居心地の良い共同空間を作るよう工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方同士で楽しく話せるような場所の配置を工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使用し、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見て【分かる】【出来る】ように工夫して、いつまでも自立した生活が送れるように支援している。		

目標達成計画



ニチケアセンター 綾瀬寺尾
事業所名 NC 支援センター

事業所名

作成日

H25.11.30

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	43プランの個別支援の発着が	個別のプランを把握する	カンファレンス以外にも、変化を促す個別プランを支援し再認識の機会を設ける	H25 12/1 ~ H26 11/30
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。